| 学校番号 | 325 |
|---|---|

# 令和２年度　地歴科

| 教科 | 地歴 | 科目 | 日本史 A | 単位数 | ２単位 | 年次 | ２年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書 | 改訂版「日本史 A」　（山川出版） | | | | | | |
| 副教材等 | 新詳日本史　（浜島出版） | | | | | | |

## 1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

教科書を中心に、図説／資料、写真やパネル、ビデオ教材なども使って多角的に理解できるようにつとめる。また、主題学習や人物の学習、地域の動向など、各分野史の学習などを通して歴史の理解を深める。

## 2　学習の到達目標

わが国の歴史を近代と現代を中心に、世界史的な視野もふまえて総合的に学び、歴史的な思考力を培い、国際社会の主体的な担い手としての資質を養う。

## 3　学習評価(評価規準と評価方法)

| 観点 | a:関心・意欲・態度 | b:思考・判断・表現 | c:資料活用の技能 | d:知識・理解 |
|---|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | 現代の日本を理解し、未来の日本を考えるために、過去の日本を振り返らなければならない。先人の足跡に尊敬の念をもち、これからの日本を担う人材としての意識を高め、積極的な態度で学んで欲しい。 | 歴史的事実にまず疑いの目をもつ。つまり裁判のように、歴史も立場が変われば事実のとらえ方が違うことを知る。５W１H に着目し、歴史に対する思考力を養っていく。 | 近現代史を中心とする日本の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている | 歴史学習の基礎は歴史用語の把握（理解と暗記）である。興味関心をもって、少しでも多くの用語を把握して欲しい |
| 評価方法 | 授業への取り組み。<br>プリント<br>ノート<br>課題提出 | 定期考査<br>プリント | 定期考査<br>レポート | 小テスト<br>定期考査 |

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

| 学期 | 単元名 | 学習内容 | 主な評価の観点 | | | | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | a | b | c | d | | |
| 1学期 | 開国と維新 | 幕末の動き・開国<br>明治維新（諸改革） | ○ | ○ | ○ | ○ | a:なぜ日本は列強の植民地にならなかったのか<br>b:多面的・多角的に考察している。<br>C:明治政府による文書史料を読み解く<br>d:人名、事件名等の把握 | ノート<br>プリント<br>小テスト |
| 1学期 | 立憲国家の成立 | 自由民権運動<br>立憲政治<br>日清・日露戦争 | ○ | ○ | | ○ | a:大日本国憲法とはどのような憲法か<br>b:日本がアジア最初の立憲国家になった意義<br>d:憲法の内容等 | ノート<br>プリント<br>小テスト |
| 2学期 | 第一次世界大戦と日本 | 第１次世界大戦<br>ワシントン体制<br>政党政治の展開 | ○ | ○ | | ○ | a:参戦と協調外交<br>b:協調外交とはいかなる外交か<br>d:ベルサイユ条約や軍縮条約の内容、二大政党について | ノート<br>プリント<br>小テスト |
| 2学期 | 昭和の恐慌と満州事変 | 大衆文化の形成<br>恐慌の時代<br>軍部の台頭 | ○ | ○ | | ○ | a:協調外交がなぜくずれるのか<br>b:中国問題について考える<br>d:経済問題に対する知識が必要 | ノート<br>プリント<br>小テスト |
| 3学期 | 第二次世界大戦と日本 | 日中戦争<br>戦時体制と統制経済<br>第二次世界大戦と太平洋戦争<br>現代の日本と世界 | ○ | ○ | ○ | ○ | a:どうして中国と戦うことになったのか、どうして日米戦争を戦かったのか、関心を持つ<br>b:戦争への過程<br>c：戦後史料を読み解く<br>d:全般 | ノート<br>プリント<br>小テスト |

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。